Autumn 2021

TAKE FREE

YIA Newsletter

公益財団法人 山梨県国際交流協会

YIA Interview

歴史や文化など、さまざまな視点から異文化に触れてもらおうと、今春「CIR's 異文化理解講座」を開講しました。講師をつとめてくれたのは、国際交流員（CIR）のレ カミーユさんとヂエゴ ラモスさんです。講座のお話、地域や人々との関わり、多文化共生についてお二人にお話を伺いました。

レ カミーユ さん

フランスパリ出身。両親はベトナムから移住。
学生、社会人としてオランダ、フィリピン、日本などで生活する。
2019年9月来県、国際交流員（CIR）として県オリンピック・パラリンピック推進課、国際戦略グループで通訳・翻訳、フランス語講座、学校訪問などを担当。現在、甲府市在住。

日本に興味を持ったきっかけは？

中学時代、日本のアニメや少女漫画に夢中でした。フランスでは、毎年7月に日本のアニメ、音楽、アートに触れることのできる「ジャパン・エキスポ」があります。このイベントに参加する度に、日本への憧れが強くなりました。高校一年生の時、父と日本を旅する機会があり、東京と河口湖に行きましたが、見るもの聞くものすべてが新しく、夢のような時間を過ごしました。今、こうやって山梨にいるのもご縁を感じます。

春の CIR's 異文化理解講座では、「多様な文化を持つフランス」をテーマに、ベトナム系フランス人の視点から移民、アイデンティティー、ジェンダーについてお話いただきました。伝えたかったことは何ですか？

日本人は、「アイデンティティー」を意識する機会が少ないように思います。そして、特にアメリカ、フランスといった先進国に対する先入観がとても強いとも感じています。このプレゼンテーションを通して、参加者自身の隠れたステレオタイプに気づいてほしいと思いました。

ジェンダーについては、日本で生活をしてみて、性役割がはっきりと分かれていると感じ、その点に触れたいと思いました。私の父は25歳、母は10歳の時にベトナムからフランスに移住しました。母は料理の手伝いが必要な時、今でも兄ではなく、必ず私に声をかけますね。その点は、アジアで育った環境、世代が大きく関係していると思います。

フランスはジェンダー指数 世界で16位、ジェンダー先進国ですね。フランスのジェンダーについてお聞かせください。

ジェンダー先進国と言えますが、女性たちが強くなったのは1968年の「五月革命」です。それまでの女性は、封建的な家父長制のもと、子どもをたくさん産み、夫の承諾なしでは貯金も下ろせない、中絶も離婚もできませんでした。この革命を機に女性解放運動が進み、今では、30代以上の8割の女性が一生涯働き、法律では、女性の管理職は全管理職の4割以上と決められています。それが守れないと罰則があります。

ジェンダー指数120位の日本で仕事をし、生活してみて、フランスとの違いを感じますか。感じるとしたらどんな点ですか。

日本の女性は、外見を整え、身なりをきちんとすることを意識していると感じます。体重を気にし過ぎたり、職場ではいつもきちんとメークアップする女性が多いですね。もちろんフランスでも外見を意識している女性はいますが、現在は、「ありのままの自分を、自分の身体を愛すること」が健康、メンタルヘルスにとても大切なことだという風潮が強くなってきています。

日本の職場では、年上の男性上司が多いです。退職まで同じ職場で働く割合が高いので、年功序列型ですね。ほとんどの臨時職員が女性ということにも驚きました。フランスでは、キャリア、経験があれば、年齢、性別に関係なく上司になりますし、給料も違います。

「こうすればもっと生きやすい」など男女格差を改善するヒントは？

春の講座でもお話ししましたが、日常での性役割について考えてみましょう。

家庭内で家事のシェア率は？子育ては？食生活、スポーツ、映画・ドラマ、学校はどうでしょうか？自身の性的指向は？嫁、奥さん、家内、主人など普段何気なく使っている言葉や表現にも、男性を中心としてきた社会構造や男女の役割分担意識が反映されたものがあることに気づくこと、そして日常を変える意識が大切なことだと思います。

秋の異文化理解講座「異文化を理解するってどういうこと？」(10/7)国によって違うコミュニケーションスタイルについて具体的に教えてください。

山梨に来てから2年が経ちますが、未だに文化の違いに戸惑い、空気が読めないことがたくさんあります。そんな中でも文化の違いを意識すると「気づき」があります。

「相手のことを考える」行動は、国によって違い、異なる意味を持ちます。例えば、私が数年働いたオランダと日本を比較するとその行動は対極に位置します。直接的、間接的な表現方法を含め、どう対極なのかを具体的な内容は講座の中でお話ししたいと思います。私が生活した国々のコミュニケーションスタイルを紹介し、参加者の皆さんと一緒に、異文化を理解する意味を考えていきたいと思いますので、ぜひ参加してくださいね。

ところで、CIR（国際交流員）として印象的だったことは？

ひとつは、北杜市高根西小学校への学校訪問です。子どもたちは自分が感じたままに質問をしてくれました。その中で、「カミーユさんは、どうしていろんな国に住んでいたの？」という質問がありました。私が通っていたパリ政治学院大学は、3年生に

なると海外に１年間留学が決められています。フランスの大学では珍しいことではありませんし、外へ出ることは自然なことでしたので、その質問に驚きました。

私は留学先に京都を選びました。日本語で話すことで、心の内や本音も聞けましたし、自国文化への気づきもありました。自分の成長を感じることのできた１年でした。こういった経験をお話し、将来ぜひ海外へ行ってくださいとエールを送りました。

もうひとつは、オリンピック・パラリンピック関連の仕事です。山梨県は、フランスのホストタウン登録数が日本で一番多く、多くのフランス代表チームが県内市町村で事前合宿を行いました。この２年間、フランス大使館の参事官・オリンピック担当者とやりとりをし、来県の際には通訳をつとめました。次回はパリで開催されるということもあり、大使館より今年８月に行われたパラリンピック聖火ランナーに推薦していただきました。山梨に来て、地域の方々との触れ合いはもちろん、大使館職員のような自国の方との繋がりもできました。この仕事を通して、山梨とフランスの交流に少しでも貢献することができて嬉しかったです。そして、個人的に聖火リレーに参加させていただいたことは、とても貴重な経験となりました。

最後に、カミーユさんにとって多文化共生とは何ですか？

フランスは、多様な国だと言われますが、その多様性は、植民地政策などの残酷な歴史の結果であること、そして現在でもその差別が残っていることを踏まえて「多文化共生」を定義しようとすると、より難しいです。多くの移民を受け入れてきたフランスは、多文化主義を認めるどころか、19 世紀末から同化政策を行っています。フランスでは「多文化共生」といったコンセプト自体が認められていません。

私は、アジア系フランス人で、マイノリティーとしてこの同化

政策の影響を受けてきた一人だと感じています。両親はベトナム戦争後、混乱した時代にフランスへ移民し苦労した経験があるので、あえて私と兄にベトナム語を教えてはくれませんでした。ベトナムへは一度しか行ったことがありませんし、家族の文化とかけ離れた状態で生活をしてきました。そうだからと言って、外見からはフランス人と思われず、一方で、初めて会う人には「どうしてベトナム語が喋れないの？」と聞かれます。どこに行っても自分のルーツを最初から話さなくてはなりません。

私のような背景、そして経験があるからこそ、私にとって多文化共生とは、国籍、人種、民族、宗教などで判断するのではなく、その人の個性を尊重し、認めることだと強く思っています。

ヂエゴ ラモス さん

ブラジル ミナスジェライス州出身。
大学ではブラジル文学・言語学専攻　在学中に１年間日本に留学。
帰国後、ポルトガル語教師として働く傍ら、ギタリストとしてさまざまなバンドのライブに参加。
2019年７月来日。国際交流員（CIR）として国際戦略グループで通訳・翻訳、学校訪問、SNS等の情報発信、CIRの目線から山梨を紹介する英文冊子「Grapevine」の制作などを担当。現在、甲府市在住。

日本に興味を持ったきっかけは?

最初は日本語に興味を持ちました。ブラジルでの大学時代（文学・言語学専攻）、日本人の留学生と知り合う機会があり、すぐに意気投合しました。彼らの話す日本語の響きが美しく、漢字の成り立ちや役割などを知れば知るほど、ますます面白くて夢中になりました。独学でしたが、一生懸命勉強しました。

その後日本へ、留学生活はいかがでしたか?

交換留学生として、千葉の神田外語大学で勉強したのは１年間でしたが、夢のような時間でした。「音楽サークル」に入ると、すぐに友人ができました。気を遣わずに何でも話せる仲間でしたので、自然と日本語でコミュニケーションが取れるようになりました。同時に、「音楽」と「言語」には共通点があると感じていました。

どんな共通点ですか?

その二つは関係がないと思われるかも知れませんが、私は７歳から音楽学校に入り、９歳でギターを習い始めました。メタル、ジャズ、ポップスなどさまざまなジャンルに興味を持ち、ずっと「音楽」に浸ってきました。外国語である「日本語」の理解を深めれば深めるほど、「音楽は言語、言語は音楽」と思うようになっていきました。「音楽」にもイントネーションやアクセントがあり、文化的な要素もたくさん含んでいます。概念により、理解や解釈が異なるので、まるで「言語」のようです。そして、「言語」にもリズム、テンポ、メロディーがあります。

秋の外国文化講座第２弾は、「多様な文化に影響を受けたブラジル音楽の歴史」（10/14）ですね。今回は、プレゼンテーションの中で、実際にヂエゴさんのギター演奏もあり楽しみです。今回はどんな内容なのでしょうか。

今回のプレゼンの中で、世界のさまざまなジャンルの音楽は、「ファミリー・ツリー（家系図）」で表せることを紹介したいと思います。フランスのジプシージャズ、スペインのフラメンコ、ポルトガルの民族音楽ファド、ブラジルのショーロ（サンバ以前の大衆音楽）などには共通点があります。音楽は、メロディー、リズム、ハーモニーで組み立てられていますので、例えば、フランスのジプシージャズ、リズムを変えるとブラジルのショーロになる、ジャズがボサノバになるなど、実際のギターの音から感じ取ってもらえたらと思います。

また、音楽は、歴史、文化、人々の生活が大きく関わっています。アメリカでは黒人が奴隷だった時代に生まれたブルース、ジャズにはパーカッションの音がありません。武器と思われてしまうことから打楽器などを使えず、メロディーを中心として受け継がれていきました。一方、ブラジルのサンバは、奴隷廃止後、スラム街の中で生まれた音楽です。物を使って音を作り出すことができましたので、パーカッションの音が響きリズムが際立っています。
講座では、できるだけわかりやすくお話するつもりです。ぜひ皆さん参加してください。

7 月に、防災の知識や理解を深めてもらおうと南アルプス市にあるブラジル人学校「アルプス学園」で行われた防災教室へ通訳として参加。いかがでしたか？

参加してみないとわからないことがたくさんありました。避難所の仕組みの説明や、生活用品作り体験、災害用の簡易トイレの組み立てなど、知らないことが多かったのでとても勉強になりました。

アルプス学園の児童や生徒たちの反応はいかがでしたか？

日本で生まれ育ったけれど、日本語はよくわからないので災害が起きた時、どうすればいいか不安に感じている子どもたちや父兄が多かったと思います。どう行動すればいいか教えてもらってよかったという声もありました。避難するときの注意、避難所でのマナーなど、初めて知ること、体験することばかりだったので、災害時には、パニックになってしまうのではないかと感じています。参加者の反応を見ると、こういった防災教室や訓練は定期的に行うべきだと思いました。

実は今回、生徒も学校関係者の皆さんも長く日本に住んでいるので、本当にポルトガル語通訳が必要なのかどうか疑問でした。でも現実は、必要でした。児童や生徒、保護者合わせて 30 人ほど、長く日本には住んでいるけれど、日本語がわかる人はほとんどいなかったことに驚きました。

その現実をどう思いましたか？

せっかく日本にいる、いつでも、どこでも日本語や日本文化を学ぶ機会であふれているのにもったいないと思いました。ブラジルにいる友人は、日本へ留学するために、何年もアルバイトをしながら必要な渡航費や学費を貯金しています。日本語を勉強するといっても、ブラジルでは十分な学習教材を手に入れるのは難しいですから。

「アルプス学園」での通訳をきっかけに、生徒の皆さんへキャリアプランについてお話をする計画があると伺いました。

はい、この「驚き」をきっかけに、ミリアン先生（アルプス学園校長）と相談し、「キャリアプラン」について私自身の経験、生徒たちの興味ある事例を紹介することになりました。

私が特に強調したのは、「好きなこと」を見つけてほしいということ、言語は「目的」として勉強すると辛いけれど、「好きなこと」を知ろうとする手段として使うと、自然と頭に入ってくるものです。留学していた頃、「音楽」サークルの気の置けない仲間たちには、遠慮せずに何でも聞けましたし、好きなことは徹底的に調べました。生徒たちには、たくさんの選択肢と可能性があります。学校でポルトガル語、帰りにブラジルの食料品店に寄って、家に帰って家族とポルトガル語で話す。毎日がその繰り返しではもったいないと思います。

まずは、言葉の習得には時間がかかるので、自分への期待度をうまくコントロールして欲しいです。どういうことかというと、3ヶ月、半年経ってもはっきりとした結果が見えてこない、そこで自分はダメだとか語学に向いてないと思ってほしくないですね。それから、まだ取りかかってもいないのに、来年 N1 合格を目指す、は無謀です。日本語は難しい言語ではないけれど、時間はかかります。そのためには、一日一日、集中すること、興味があることを教材に取り入れることで結果が見えてくるものだと思います。

日本語にはひらがな、カタカナ、漢字がありますが、それぞれを分けて考えないこと。日常生活の中にある身近な例を使って覚えていって欲しいです。例えば、ひらがな表記だけでは意味不明だということを理解して欲しいです。
「きょうかいにいきます」→ 教会に行きます？
今日買いに行きます？

最後に、ヂエゴさんにとって多文化共生とは？

世の中はグローバル化していますので、多文化共生は自然なことです。相手の概念は同じではないこと、アイデンティティーと外見は一致しないことなどを意識して生活するともっと過ごしやすくなります。日本、世界の問題は人類の問題だと思うことが大切だと思います。

山梨県立国際交流センターの移転（複合化）について

山梨県では、平成２９年度より県立国際交流センターを含めた公共施設のあり方を検討して参りましたが、国際交流・多文化共生等の事業と男女共同参画事業は、親和性が高く、相互に連携することにより、利用者の裾野の拡大、団体同士の連携の深化等の相乗効果が期待されることなどから、令和５年４月に国際交流センターを男女共同参画推進センター（ぴゅあ総合）へ移転し、両施設の機能を有した施設（複合化）とすることとしましたので、お知らせします。

移転先 県立男女共同参画推進センター（ぴゅあ総合）［住所：甲府市朝気１－２－２］　**移転日** 令和５年４月１日（予定）

JICA 通信　青年海外協力隊 活動紹介　from ヨルダン

清水 貴央（職種：体育教師／北杜市出身）

（アッサラーム・アライクム・ワルハムトゥッラーヒ・ワバラカートフ）

السلام عليكم ورحمة الله وبركاته

あなたに神からの平和、慈悲、祝福がありますように（アラビア語での挨拶）

2021年7月より JICA 山梨デスクに着任いたしました。生まれも育ちもここ山梨、幼少期から活発な少年として、日々を過ごしてきました。何にでも積極的に自分を適応させていこうとする意欲は、習字やピアノ、スポーツと分野を問わず寝食を忘れる日もあるほど全てに熱中してきました。特にスポーツでは、サッカーを小学 1 年生から高校生までの 12 年間現役を続けてきました。何事にも、好奇心旺盛な性格は次第に海外へと目を向けるようになっていきます。

そんな時、大学時代に友人と訪れたフィリピンにて、ストリートチルドレンから物乞いを受けたのです。当時、私自身何もできず歯がゆい思いをしたことがわだかまりとして心に残り、事ある毎に自分にできることは何か問い続けました。そして、その思いを体現できる JICA 海外協力隊への道に進むことを決意したのです。私自身 24 年間、スポーツから多くの喜びや楽しさ、学びを得てきました。パレスチナ難民キャンプにて現地の子ども達にも運動やスポーツを通じてそれらを体感してもらい、人生がより豊かなものになればと熱い思いを胸に体育教師として、彼らを指導する任に就きました。しかし、配属先の学校では体育や音楽などの情操教育は行われておらず、どのような方法で体育の授業を普及させていくのか、まずは信頼関係を築く事を優先しながらも、現状把握に努め幾つか施行し始めました。そんな矢先に、新型コロナウイルスの影響により本邦への緊急帰国を余儀なくされたのです。活動期間は、わずか 4 カ月と非常に短い期間となってしまい、やるせない気持ちで一杯でした。

日本への帰国 3 日前、現地の児童らと共に運動会を開催することができました。障害物競走や玉入れの道具は、一から子どもたちと一緒に作り上げたことで、より一層運動会への思い入れが増したように思います。開催後、「おもしろかった、またみんなでやりたい。」と多くの声が子どもたちから聞くことができました。日本独自の文化である運動会の楽しさを伝えると同時に、日本のように何でも手に入る環境ではないため、創意工夫から得る喜びの大きさも体感してもらえたと思います。

そして帰国後、再渡航を待つだけではなく「今」できることを考え、ヨルダンでの経験を還元するために山梨県の教育に携わってきました。JICA 海外協力隊で得た繋がりを活かし、ヨルダンやカンボジア、マダガスカルといった国々と ICT 機器を用いて授業を展開したのもその一つです。

これからは、山梨県の国際協力推進員として、「信頼で世界を繋ぐ」ビジョンのもと山梨県民を始めとする国民の皆様と JICA を繋ぐ窓口として、コピット（山梨方言「しっかりと」の意）全力で山梨県から発信していきます。よろしくお願いいたします!!

JICA山梨デスクFacebookページ
https://www.facebook.com/JICAyamanashi/

JICA横浜ホームページ
https://www.jica.go.jp/yokohama/office/suishinin.html

①②パレスチナ難民の子ども達と一緒に運動会　③最初の1か月間通った語学学校の卒業式　④世界遺産ペトラ遺跡の前で　⑤子ども達と指遊びでコミュニケーション（難民キャンプ内の児童館にて）

JICA山梨デスク　清水貴央
（公財）山梨県国際交流協会内
〒400-0035　甲府市飯田二丁目2-3
JICA http://www.jica.go.jp
Tel.055-228-5419 Fax.055-228-5473
jicadpd-desk-yamanashiken@jica.go.jp

県内唯一の職業紹介優良事業者です。
お仕事相談無料です。県内在住の外国の方、お気軽にご連絡ください！
LINE公式アカウントでも受付中 @398strhc
株式会社 アルビス
0120-053-052
〒409-3822 中央市下三條550
19-ユ-300065 派19-300008
やまなし転職・就職ナビ
1903001(01)
A·R·B·I·S

アシストエンジニアリング
お仕事たくさんあります！
中国・インドネシア ブラジル・ベトナム の通訳います
(株)アシストエンジニアリング
山梨県中央市布施 2106-1
0120-713-809
https://www.assisteng.co.jp

VISAのことなら何でも相談ください
ビザ更新・外国人雇用・国際結婚・永住・帰化・技能実習生受入・有料人材紹介
特定技能登録支援機関
ビジネスサポート行政書士事務所
中巨摩郡昭和町清水新居 1666
TEL 055-233-0211

山梨県内外で“おしごと”を紹介します
とうろくは いつもでも簡単にできます
English, Portugues も対応できます
Trend Co.,Ltd. 株式会社トレンド
中巨摩郡昭和町河東中島 1151-7
0120-972-061
http://www.trendco.biz
【派 23-301642 23- ユ -301187】

TOTOリモデルクラブ会員　水廻りのリフォームおまかせください。
1969 年設立
リフォーム実績 500 件以上！
信頼と実績、まかせて安心！
甲府住宅設備株式會社
KOFU JUTAKU SETSUBI
〒 400-0047 甲府市徳行二丁目 10-40
☎ 055-228-8821（代）
リフォーム部門 楽水クラブ　０１２０－８６－３２４６

あなたに合ったお仕事紹介します！
日本語が少し分かれば働けます。
派19-300122 19-ユ-300091　中巨摩郡昭和町河東中島963-1
株式会社ネクストエイジ ☎055-275-3216

YIA Information

インフォメーション

10月

災害時外国人支援セミナー

「山梨県国際交流ボランティア人材バンク」に登録している災害時外国人支援ボランティアの皆さんなどを対象に、災害時における外国人支援のあり方や「山梨県災害多言語支援センター」における具体的な支援方法について学びます。

と　き　10月16日（土）10：00～16：00
ところ　県立国際交流センター

11月

外国人のための無料法律相談会

外国人住民などの皆さんを対象に弁護士による無料の法律相談会を開催します。

電話で予約をしてください。TEL 055-228-5419

と　き　11月21日（日）10：00 ～ 15：00
ところ　県立国際交流センター　共催　山梨県弁護士会

12月

ワールド・チャリティー・クリスマス

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、今年度の開催は中止いたします。

にほんご講座

NIHONGO

山梨に暮らす外国人など、日本語を勉強してみたい

みなさんのための初級にほんご講座です。

期日：毎週金曜日 6:30pm～8:30pm
毎週日曜日 10:00am～12:00pm
場所：県立国際交流センター

山梨県国際交流ボランティア人材バンク

Volunteer Bank

通訳や翻訳、外国文化紹介、災害時外国人支援など、人材バンクに登録いただける方を募集しています。

また、県や市町村、公的機関などからの依頼に応じて、紹介を行っています。

山梨県国際交流協会（YIA）facebook

facebook

国際交流協会からのお知らせの他、外国人住民向けのお役立ち情報も多言語で発信しています。

ぜひ「いいね！」をお願いします。

やまなし外国人相談センター

Yamanashi Foreigner Consultation Centre

外国人の皆さんからのさまざまな相談を受け付けています。

日本語がわからなくても大丈夫です。困ったら電話してください。

相談は無料です。

受付：火曜日から土曜日
9:00am～4:00pm（祝日を除く）

場所：県立国際交流センター 2F

TEL：055-222-3390

外国人のための無料法律相談（予約制）

Free Consultation

弁護士が対応します。

開催日時：毎月第1水曜日　6:30pm~9:00pm
毎月第3日曜日　1:00pm~4:00pm

場所：県立国際交流センター　TEL：055-228-5419

国際交流センター会議室ネット予約できます！

Conference room

施設予約サービス「やまなしくらしねっと」からご予約いただけます。

やまなしくらしねっと施設予約　検索

料金表	午前 9:00am - 12:00pm	午後 1:00pm - 5:00pm	夜 6:00pm - 9:00pm	全日 9:00am - 9:00pm
大会議室	2,310円	3,470円	3,470円	9,250円
小会議室	750円	1,150円	1,150円	3,050円

会議室の予約方法はこちら！▶ http://yia.or.jp/wordpress/?page_id=415

県立国際交流センターは、「やまなしグリーン・ゾーン認証施設」です。

国際交流協会では、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、事業等を実施しています。

編集後記

今回のインタビューを通して、異文化に触れ、その国の歴史や背景を知ることで得る「気づき」は、多様な社会にとても大切なことだと感じました。ほんの少し意識するだけで、社会が、環境が変化していく、二人の異文化理解講座は、私自身の学びの時間でもありました。

雨宮

YIA Newsletter　2021年 秋・冬号

編集／発行　公益財団法人 山梨県国際交流協会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-3
TEL 055-228-5419　FAX 055-228-5473　受付時間　9:00am～9:00pm
休館日　毎週月曜日（祝祭日を除く）　および祝祭日の翌日、年末年始（12/29～1/3）
URL　www.yia.or.jp　Email　webmaster@yia.or.jp